

M&A専門誌

Mergers & Acquisitions
Research Report

MARR マール

2008 August 8月号

発行人 高橋 豊
Yutaka Takahashi

編集長 川端 久雄
Hisao Kawabata

制作進行 加藤 順子
Junko Kato

表紙写真 十文字 美信
Bishin Jumonji

アート
ディレクション イシザキ ミチヒロ
Michihiro Ishizaki

デザイン 斎藤 圭太
Keita Saito

本文写真 朝日 良一
Ryoichi Asahi
中山 剛明
Takaaki Nakayama

印刷 三松堂印刷株式会社

発売元：株式会社レコフ
株式会社レコフデータ

発行所：株式会社レコフデータ

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-1-1

麹町ダイヤモンドビル

TEL.03-3221-4942

2008年8月1日発行 通巻166号

雑誌18321-08

定価4,200円 本体4,000円



編集室から

BOOK

『市場検察』

村山治著
文藝春秋
1857円(本体)



強烈なタイトルである。日本の検察は、長く「特捜検察」と言われた。しかし、バブル崩壊後、法務・検察運営のあり方が根本的に変わった。それを「市場検察」という象徴的な言葉で表現しているのだ。検察取材のベテラン記者が、この10数年間に検察が摘発した著名事件を再現しながらその変貌ぶりを描いている。日本の政治経済社会の変わり方も分かる。検察を取り上げた本は多いが、このように広い視点に立脚した本は余りない。

検察といえば、東京地検特捜部が華である。戦後、ロッキード事件、リクルート事件、金丸脱税事件など政治家をめぐる事件で、特捜検察は多くの国民の共感を集めてきた。特捜検察の使命は、戦後日本の官僚を中心とした護送船団方式のシステムを守ることにあると著者はいう。この秩序を乱し、不正に利得を図る政治家が「巨悪」とされ、特捜検事たちはこの摘発に命をかけた。企業が行う談合事件などは必要悪として軽視されてきた。

こうして日本は経済大国になったが、80年代末から米国の市場開放の圧力を受ける。グローバル化の波も押し寄せてくる。談合に対する考え方も変わり、公正取引委員会が積極的に摘発に乗り出す。独禁法改正を巡り、政治家に金が渡っていたことも明らかとなり、特捜検察が贈収賄事件として立件する。検察も官製談合の腐敗に目を向けるようになる。

一方、法務・検察の一部のエリート検事たちは、海外勤務や日米構造協議の交渉に当たる中で時代の変化に気づく。日本の国のあり方を護送船団方式からルールに基づく事後チェック型社会へ転換していかなければならないと目覚める。司法制度改革を推進し、さらにはトップに立ち、検察の運営も変えていく。特捜検察を支えてきた検事は失脚し、大物政治家が絡む政治献金疑惑は中途半端なまま捜査に幕が下ろされた。

05年に検事総長に就任した人物は「これからの検察は、経済ルール違反の摘発に力を入れる」と宣言し、その後、ライブドア事件、村上ファンド事件を摘発した。司法取引の武器を手にした公正取引委員会、金融庁・証券取引等監視委員会とも緊密なネットワークを築き、監視委のトップには検察出身者がつく。「市場検察」が現出したというのだ。

官僚立国の日本で戦後、長く大蔵省がその中心にいた。不祥事などで大蔵省が機能不全を起こしたときに、代わって改革を担ったのが法務・検察官僚だったという。結局、大蔵支配から検察支配に変わっただけで、官僚支配は変わらない。しかも、検察自体も、調査活動費流用疑惑やOBの不祥事で信頼が揺らぐ。経済や国のあり方を官僚が主導するやり方で、日本が本当に市場経済を目指せるのかと著者は疑問を投げかけている。

本書では有名検事らが実名入りで出て来る。密室での取り調べの様子、捜査方針をめぐる対立などが会話体で綴られている。大きな時代の転換点の中での組織と個人の葛藤もある。取材メモや関係者への再取材で構成したといい、元首相も含まれる。気骨のある大蔵官僚や左遷された検事の復活などの人間臭いドラマも興味深い。出版社の勤めで執筆したとのことだが、著者の力量、新聞社の人材の厚さ、編集者の慧眼に感心した。(青)

編集後記

雨の日、傘をさしながら歩く。ある歌詞が浮かぶ。「その道が……長くても、私は歩いていく。時折雨が降ろうとも、しずくの中に虹をみる」。先日、ミニコンサートでフランス人の女性シャンソン歌手が歌っていた。昔、見たやはりフランス映画の色鮮やかな赤や青の傘が目に見えてくるけど、虹なんて見えない。歌詞はこう続いていたのを思い出す。「内なる声だけに耳を傾ける。光り輝いて自分の人生を生きるために」。内なる声なら、たくさん聞こえてくるぞ。「自分に負けるなよ」「社会に身を置け」「仕事をしていれば、そのうちいいことがあるさ」……。くすんだ人生だが、歩いていくしかないか。(開)

本誌の記事およびデータの著作権は原則として株式会社レコフデータに帰属します。いかなる目的であれ当社に無断で本誌記事の複製、引用、転載等を行うことを禁じます。また、本誌記事の情報は、当社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、完全性が保証されているものではありません。当社は本誌記事に起因して被った損害については、その内容如何にかかわらず一切の責任を負いません。乱丁・落丁の場合はお取り替えいたします。03-3221-4942までご連絡ください。